



〈2025 エム・エム ブリッジ株式会社 設立10周年記念誌〉

架ける力

Power of build

情熱



MM BRIDGE CO., LTD.



〈2025 エム・エム ブリッジ株式会社 設立10周年記念誌〉

架ける力

Power of build

技術



MM BRIDGE CO., LTD.

10周年の思い

エム・エムブリッジ株式会社

初代取締役社長

(2015年4月～2020年6月就任)

逸見雄人

三菱重工鉄構エンジニアリング株式会社(MBE)の状況

橋梁部門として2年連続で30億円を超える赤字を出し、単独で事業を続けるか、他社とのアライアンスをして存続するかという選択に迫られた。橋梁車独事業会社として2014年7月に三菱重工グループから離れる予定であったが、株式譲渡条件の合意遅れや、その後の損益の下方修正もあり、2015年4月の非常に厳しい状況での船出となった。

最初の宮地エンジニアリンググループ株式会社(MEG)の役員会で「何でこんな会社を買ったのだ」という質問が出て、こちらとしてはまな板の上の鯉状態なので、約束の数字は必ず守りますと言えなかった。

創設時にMEGが依頼した経営コンサルティングから、この会社はどんなに頑張っても1億円の赤字しかないと言えなかった。

就任時の苦勞

MBEになっても長大橋の技術を持ち、設計と建設の技術者をそれなりに温存し、技術実績はどこにも負けないという自負もあった。ただお互いのベクトルが違う方向に向かっていただけなのではないか。三菱重工も手厚くサポートしてくれており、橋梁建設に対する熱い思いを社員が皆持っていることを感じていたので、社員の頑張りをいかに引き出すかが最大の課題と思っていた。重工の木村ドメイン長が分社化時に激励の講話をされて、「ベクトルというのは第一象限に置かないと駄目だ、第三象限に放たれたらマイナスになる。だからといって皆同じ金太郎飴では良くない。ファウルを打たないでフィールドに行っていれば合力はプラスだ」と言われたことがずつと心にあつて、叱らずに人の話を聞くこと、現場



に近い処で自分の目で見えることに注力した。

社長がいくら頑張っても、1人の力は2にはならない。150人の社員が1割頑張ってくれた方が余力になると思ひ、最初は無駄を省くこととコミニケーションを図ることに力を注いだ。現場に足を運び、酒を酌み交わしながら彼らの苦勞や悩みを聞き、パトロール後にはお客様にも挨拶に行つて会社が現地をバックアップし、現地所長の負担を少しでも担えるようにした。

タウンミーティングを行い、会社の現状や方向性を社員に直接説明する機会を増やした。事業計画を何度も下方修正してきた過去の経営から脱却するために、社員の生の声を聴き、どうやって会社を伸ばしていくか考えた。

安全と品質にこだわり、コンプライアンスをその根幹に置いたが、東京港の沈埋函の工事発注前には親会社に談合ではないかとの投書があり、客先やJVばかりか親会社からも厳しい指摘を受けたが、東京湾内で沈埋函を施工できるドックは千葉と横浜にしかないので事前調査に対応したというこ

とを、きちんと調査して社員向けに説明会を開き、その旨を客先に報告して理解を得た。

社長交代の年にコロナ禍が起きた。最初は何をしたら良いかわからず、ただじつとしているだけであったが、広島タイヤモドホテルの会議室を借りて、本社の管理部門をつつに分けてリスク分散を図った。無理強いをさせた社員の方々には苦勞を掛けしたが、辛い就任時には感染者も出ず、出張中止や在宅勤務などで出費が減り、固定費増をカバーできた。危機管理の最初の事象で、そんな中で社長を退任した。

これからの期待

池浦社長になつて経営も安定して利益もきちんと出せるようになった。これは社員一人ひとりの頑張りのお蔭であると感謝している。

しかし、良いことがいつまで続くかは神のみぞ知ることで、30年間続いた企業は少ない。

では、MBEはどうするのか。保全工事に他社よりも先に手を出し先行者利益をいただいたが、これも同じことは考えられず、ゼネコンが入つてくれば勝てないのは明白。新しい事業に出るのか、容易なことではないがそれも選択肢のひとつである。

私が思う処は「技術は嘘をつかない」ということではないかと。失敗を恐れて何もしない人がいるが、時代が変わりつつある時に、従前と同じことをしていついていける訳がない。1度失敗しても、その原因を究明して修正すればそれはプラスになるはずである。チャレンジ精神を忘れてはいけない。常にアンテナを張り巡らし、自分の頭で考える習慣を付けることが大切。青田元社長がいつも言われていた「会社という人間はいない」ということで、常に自分ならどうするかと二人称で考えることが必要で、前向きに取り組んで欲しい。10年後の会社を背負うのは若い社員である。年寄りに任せていては明日はない。

ごあいさつ

皆様には、平素より格別のご高配を賜り、誠にありがとうございます。おかげさまで、当社は2025年4月1日をもって設立10周年を迎えることができました。この節目の年を迎えられたこと、深く感謝申し上げます。

設立当初から「人をつなぎ夢を架ける」という使命のもと、私たちの事業領域において、「お客様から信頼」され「国民の安心と安全を担い社会に貢献」する企業を目指し邁進して参りました。最初は小さな一歩からのスタートでしたが、皆様のご支援に支えられ、共に歩み共に成長することが出来ました。全国各地の重要な橋やインフラに携わり、社会に貢献できたことを誇りに思っております。

この10年、私たちが大切にしてきたのは「誠実」そして「経営の革新と技術の開発」です。お客様の信頼に応えるため、社員一同、誠実を旨とし、経営の革新と技術力の向上に努め、安全で確実な施工を行い、確かな品質をお届けできるよう全力を注いで参りました。

これも私たちを支えて頂いたお客様、パートナー企業をはじめとするステークホルダーの皆様、そして社員一人一人の弛まぬ努力があつて成し得たものです。

中でも、宮地エンジニアリンググループ株式会社様、宮地エンジニアリング株式会社様、そして三菱重工株式会社様には、設立から現在に至るまで、変わらぬご支援とご厚情を賜り、感謝に堪えません。各社のご理解とご協力があつて、当社は成長を遂げ、過去最高益でこの10周年を迎えることができました。今後とも相互の信頼関係を深め、共に歩みともに成長して行くことを大変嬉しく思います。

この10周年を契機に、二層の飛躍を目指し、次の10年に向け新たな挑戦をスタートさせます。今後は環境への配慮や、SDGsへの貢献、革新的な技術の導入など、社会の変化に適応した企業運営を推進して参ります。私たちは、未来のために必要なインフラを支え創り上げる存在として、更なる価値の創造を目指します。

最後に、これまで支えて頂いた全ての皆様に、改めて心より感謝申し上げます。

これからも「人をつなぎ夢を架ける」企業として貢献して参りますので、倍旧のご支援、ご指導を賜りますようお願い申し上げます。

エム・エムブリッジ株式会社

取締役社長

(2020年6月就任)

池浦正裕



沿革

当社のルーツは日本初の鉄の橋である「くろがね橋」までさかのぼります。三菱重工業株式会社の橋梁部門として、名だたる橋梁を時代の要請に合わせて建設してきました。そして今、未来を拓く夢の架け橋を「エム・エム ブリッジ」として架けていきます。

1997										1996										1994										1992										1989										1987										1974										1972										1968										1884										1868																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																	
 明石海峡大橋 世界最大級の吊橋 1997年土木学会田中賞受賞 深江地区震災復旧 阪神淡路大震災で倒壊した 深江地区高架橋の復旧架設										 白鳥大橋 1998年土木学会田中賞受賞  東京湾アクアライン										 レインボーブリッジ 1993年土木学会田中賞受賞  東神戸大橋 3径間連続の斜張橋 1993年土木学会田中賞受賞  横浜ベイブリッジ 当時日本最大の斜張橋 1989年土木学会田中賞受賞										 瀬戸大橋 世界一長い鉄道道路併用橋 1988年土木学会田中賞受賞  港大橋 日本最大のトラス橋(超高張力鋼HT80使用) 1974年土木学会田中賞受賞										 安芸大橋 日本初のニールセン橋										 くろがね橋 日本初の鉄の橋																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																			

社会貢献活動

エム・エム ブリッジは、CSR(企業の社会的責任)を経営の基軸に据え、常に社会の視点に軸足を置き、社会の期待に応え、信頼される企業を目指しています。

数字でみるエム・エム ブリッジ

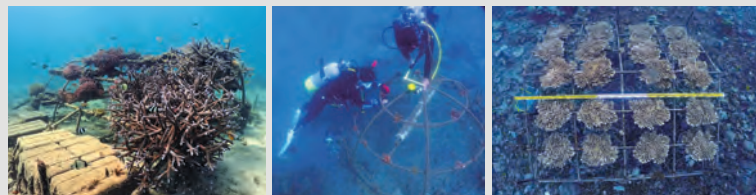
数々の名だたる橋梁を架設してきたエム・エム ブリッジ。
155年以上の歴史を支える「私たちの強み」をご紹介します。
(2025年3月時点)

サンゴの成長促進技術の研究開発

2004年、沖縄県竹富島に建造した浮栈橋の水中部壁面にサンゴが自然着生していることを発見したことが、研究の始まりです。この技術を「GMC(Galvanic Method for Corals)」と名付けました。本技術は、電気防食技術(流電陽極法)により発生する微弱な電流がサンゴの成長を約1.5～2.5倍促進させることを確認しました。また、本技術を応用して作成した基盤材(電着基盤)のサンゴ幼生の着床率は、これまで着床基盤として使用されていた素焼きタイルの約6倍以上着床する結果を得ました。また、GMCによってサンゴは高水温下での死亡率軽減の可能性も示唆されています。現在、サンゴ生育棚は沖縄県石垣島のウニ礁・名蔵湾、長崎県高島の人工海水浴場、和歌山県串本町に設置されており、長崎県、和歌山県では、エコツーリズムへの活用も進めています。2025年で21年目を迎え、今後はさらに研究を進めサンゴ礁の保護と増加を目指します。私たちは、自然と人間が豊かに共存する未来の実現を目指し、海水温上昇によって減少するサンゴ礁を「守る」だけでなく、「増やす」ことができるよう研究開発を推進していきます。

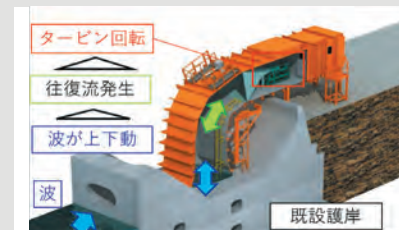


竹富浮栈橋:2004年
RCハイブリッド浮栈橋
2面(1面あたり:幅10m×
長さ35m×高さ2.55m、
重量523t)であり、揺れの
低減のためMSボードを採
用しています。



空気タービン式波力発電装置の開発

国立研究開発法人新エネルギー・産業技術総合開発機構(NEDO)のプロジェクトで、異業種8社のコンソーシアムを結成して、空気タービン式波力発電装置の実用化の目途付けを行いました。この装置は、波の上下運動による空気の流れてタービンを回して電気を発生させるもので「振動水柱型」と呼ばれます。このプロジェクトでは往復流型衝動タービンを採用し、既存の護岸構造物に装置を取り付けることでコスト削減と効率向上を図りました。2015年度には山形県酒田港に実証装置を設置し、40円/kWhという発電単価を達成しました。波力発電は太陽光や風力に比べて安定した供給が期待されますが、現在の発電単価は高いため、さらなるエネルギー変換効率の向上を目指しています。(洋上風力25円/kWh、太陽光10円/kWh以下)



浮体式ペロプスカイト太陽電池の共同実証実験

2050年のカーボンニュートラル達成を目指し、再生可能エネルギーの拡充が進められる中、積水化学工業(株)、エム・エム ブリッジ(株)、恒栄電設(株)の3社は、国内初となる浮体式ペロプスカイト太陽電池の共同実証実験を行っています。ペロプスカイトはヨウ素を原料とし、軽量かつ柔軟性に優れているため、従来のシリコン系太陽電池では設置が難しかった場所にも適用可能です。この特長を活かし、2024年4月3日から1年間、東京都北区の閉校した学校のプールにペロプスカイトと浮体を一体化した浮体式ペロプスカイトを設置して、浮体構成、施工性、発電性能を検証しています。エム・エム ブリッジは、浮体の構造設計や係留方法等のノウハウを提供し、効率的な配置や浮体形式の開発を進め、学校のプールから港まで幅広く展開することを目指しています。



清掃活動

地域の綺麗な街づくりを実現させるため、事務所周辺や現場周辺等の清掃活動を行ったり、清掃イベントに参加したりしています。



155年

以上もの長い歴史を持つ
鋼橋のパイオニア

3,000橋

以上を手掛けてきた
実績と信頼

当社はこれまで国内外に3,000橋以上
という数多くの橋梁を手掛けてきました。

北は仙台から南は長崎まで
日本全国各地に
事業拠点・実験設備

12拠点

プロフェッショナルが各分野に在籍

業界トップレベルの高さと厚みがある、橋づくりのプロ集団。
安全を最優先に考えながら、日々研究を重ねています。

一級土木施工管理技士

156人

●社員数に対する有資格者割合

54%

(2人に1人が一級土木施工管理技士)

技術士

(建設部門・鋼構造及びコンクリート)

43人

●技術者数に対する有資格者割合

28%

(4人に1人が技術士)

NO.1

社員1人あたりの売上高

業界トップ
クラス

売上・利益率は順調に推移。
社員1人あたりの売上高(約1億円/人)は
業界屈指です。

〈売上高〉 ※金額単位:百万円

2015年度

2024年度

13,369

22,585

(エム・エム ブリッジ設立初年度)

(2024年12月末時点) ※過去最高売上高を見込む

〈従業員数〉

2015年

2025年

241人

287人

(2015年4月1日エム・エム ブリッジ設立時点)

(2025年3月1日時点)

卓越した技術を
提供したい



「安全」は全てに優先



技術

Technology



「品質」は
我が社の生命線

情熱

Passion

法令・社会規範の
遵守



心は熱く、頭は冷静に



決して諦めない
社会に貢献し続ける

人をつなぎ夢を架ける

エム・エム ブリッジは、人をつなぎ夢の 架け橋で、未来地図づくりに貢献します。

社 是

- 一、顧客第一の信念に徹し社業を通じて社会の進歩に貢献する
- 一、誠実を旨とし 和を重んじて公私の別を明らかにする
- 一、世界的視野に立ち 経営の革新と技術の開発に努める

経 営 理 念

「和」と「誠」と「情熱」をもって「お客様から信頼」され
「国民の安全と安心を担い社会に貢献」

経 営 ビ ジ ョ ン

- ・良質な社会インフラの提供
- ・不断の技術研鑽
- ・次世代に受け継がれる新しい価値観の創造
- ・事業基盤の強化と多様化



有明筑後川大橋



永代橋



桑折高架橋



鎌瀬橋



さくらみらい橋



ロッキングピア耐震補強



新町川橋



駅西高架橋



河内川橋



利賀大橋



天神橋



鳥栖久留米BP筑後川橋



YK42工区・YK43工区



建設部 工事1グループ 主席

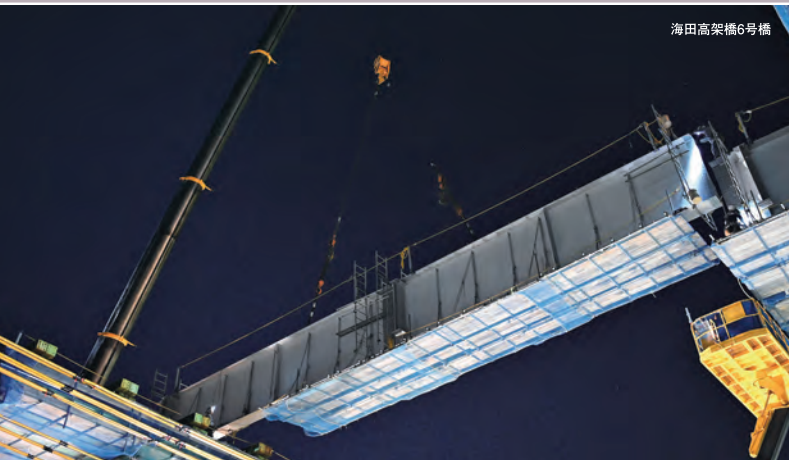
立石 篤志

橋 梁 名：有明筑後川大橋
架設当時：監理技術者

「無事故無災害で完成させたい」「皆さんに喜ばれる橋を作りたい」との思いで、この工事に携わる皆さん・地元の方への感謝の気持ちを忘れず、明るく楽しい現場づくりを常に心掛けました。工事受注直後から計画担当として、現地工事着手後は監理技術者として最初から最後まで担当させて頂きました。ここに書き切れないほど多数の課題がありましたが、諸先輩方、協力会社の方々の知恵と技術を集結して無事に工事を終わらせることができました。地元の方々の喜ぶ声や、完成に伴う地域の盛り上がりを感じ、色々な苦勞が報われた気がしました。有明海沿岸道路の代表的な大プロジェクトに監理技術者として携われて、関わった皆様に感謝しております。

1本のアーチリブが支点部ににて2本に分かれる構造の2連アーチ橋は日本初の橋梁形式とデザインを誇ります。本橋梁が位置する大川市にて盛んな「大川組子細工」を用い、業界最先端のコンピュータモデリングを取り入れながら、周辺風景と調和したデザインを創出しました。約1300tの重量を持つP5-P6径間では、送り出し架設工法を採用し、安全且つ高い精度にて架設を行いました。

2021年度土木学会田中賞「作品部門」(新設)を受賞しました。



海田高架橋6号橋



海老江ジャンクション



福山西環状線30号橋



サンゴ生育棚(石垣島)



下畑駒原橋



高速横浜環状北西線青葉地区上部・橋脚



気仙沼湾横断橋



R3圏央道利根川橋五霞地区上部



R3横環南栄IC・JCT本線第1橋



R3圏央道利根川橋上部



館高架橋



六角川橋



葛葉川橋



建設部 部長

戎 克行

橋 梁 名：気仙沼湾横断橋
架設当時：現場代理人

私たちは、東日本大震災からの復興を象徴する三陸沿岸道路の一部、気仙沼湾横断橋の建設に携わりました。この橋は東北地方最大の斜張橋であり、震災復興のシンボルとして早期開通が求められる重要なプロジェクトでした。海上架設という特殊条件の中、気象や海象による工程遅延や安全確保の課題に直面しましたが、関係者全員が一丸となり、詳細な架設計画を重ねて乗り越えました。特に荒天による輸送遅延や工程の遅れを克服し、無事故・無災害で目標を達成できたことは大きな成果です。完成を迎え、地域住民の皆様から感謝の言葉を頂いたことは、私たちの努力が報われた瞬間でした。この経験を糧に、今後も挑戦を続けていきます。

国土交通省による、東日本大震災からの被災地復興に向けたリーディングプロジェクトとして整備が進められた本橋梁は、最大支間長360mを有する鋼3径間連続斜張橋であり、東北地方では最大規模の長大橋です。高度な技術力や経験が求められる特殊工法が採用され、3000t吊起重機船を用いた主塔大ブロック架設や、主塔近傍では600t吊起重機船を用いた大ブロック架設を行い、そこから直下吊設備を用いて主桁バランシング架設を行いました。2022年度土木学会田中賞「作品部門」(新設)を受賞しました。



早瀬大橋



大月管内跨道橋



大河内橋



大西南高架橋



大西南第2高架橋



川崎港臨港道路



只越大橋



吹田JCT～中国池田IC間橋梁



千葉モノレール



相模川橋



高瀬橋



側道3号橋



田之倉橋



神戸空港連絡橋



福山沼隈線道路



鳥栖朝倉線 (味坂SIC工区) 道路



第一白川橋りょう



営業部 西日本営業グループ
宮本 幸恵
 橋 梁 名：第一白川橋りょう
 架設当時：営業担当者

本工事は、2016年に発生した熊本地震により架け替えを余儀なくされた単線鉄道橋である第一白川橋りょうを、復旧計画から旧橋撤去、製作、新橋架設までを担う大プロジェクトでした。私は、営業担当として初めて携わった工事で右も左もわかりませんでしたが、工事関係者皆さんの「無事故無災害で竣工を迎える」という強い思いを目の当たりにし、全力でサポートしようとかくがむしゃらに取り組みしました。無事に竣工を迎え、南阿蘇鉄道のシンボルとして約7年3か月ぶりに全線運転再開した日のたくさんの地元の方々が笑顔で旗を振る姿を見て、今後もこのような仕事に携わっていきたく強く思いました。

熊本地震により被害を受けた南阿蘇鉄道のアーチ橋を、地元の方々に親しまれた景観を維持しながら再生する復旧工事です。構造は2ヒンジスバンドレル・ブレースド・バランスドアーチとされ、国内でも数少ない橋梁形式であり、完成当時鉄道省で最も高さを持つ鉄道橋となりました。地震の損傷により、未知の応力状態にあるバランスドアーチを撤去するという国内でも類を見ない危険な工事でしたが、ケーブルエレクション直吊工法を提案し、事前解析と挙動を常時モニタリングすることで安全な解体撤去を可能にしました。2022年度土木学会田中賞「作品部門」(新設)を受賞しました。



横浜港新本牧地区ハイブリッドケーソン



汐留歩道橋



袖川橋



庄川橋梁



三坂新田高架橋



黒部川新橋



名港中央大橋



江の川橋



相生橋



佐世保高架橋



堂島大橋



江戸川競艇場浮消波堤



水尻高架橋



新山国大橋



平良港ジャケット



建設部 工事2グループ 主事
牧野 敦史
 橋 梁 名：堂島大橋
 架設当時：工事担当者

大阪市を南北に走るあみだ池筋。そこに架かる小さな橋の改修工事を、2年間にわたる通行止め規制の中進めました。1927年に架設された歴史あるアーチ橋を、主構造はそのままに、それ以外の部分をピンまで全て取り替え、塗装も一新しました。一見すると新しく見えますが、リベットで接合されていることや、親柱に残る空襲の痕跡など、歴史を刻みながらも生まれ変わった橋です。都市部の河川上で、足場が水につかるような狭隘な場所での施工は難易度が非常に高いものでした。関係者全員が知恵と技術を結集し取り組んだ結果、無事に完工を迎えることができました。本プロジェクトに携われたことは、私にとって特別な経験であり、大きな誇りです。

本橋梁はイタリアンロマネスク様式のラーメン橋台付きの大型下路アーチという、他に例のない歴史的建造物であったことから、その歴史的・文化的価値を継承するため、比較的健全な下部工橋台と上部工アーチ部材を残し、床板・床組を全面的に取り替える工法をとりました。歩行者の通路と橋下を走る船の航路を維持するため、入念な工程・工期の確保が行われました。水上に位置しているため、一般的なトラッククレーンの他に、門型の架設設備を橋面上に設置して施工を行いました。2020年度土木学会田中賞「作品部門」(改築)を受賞しました。



菅提高架橋



上信越自動車道(隆平)



水島臨港道路



木津川橋



生麦ジャンクション



東深瀬2号高架橋



徳田橋



喜連瓜破橋



諫早IC合流橋



東京湾沈埋橋(出渠前)



新八幡川橋



東品川橋



馬渡橋



石原高架橋



宮島口大棧橋



乾谷高架橋



宮島口ジャケツ



俵山大橋



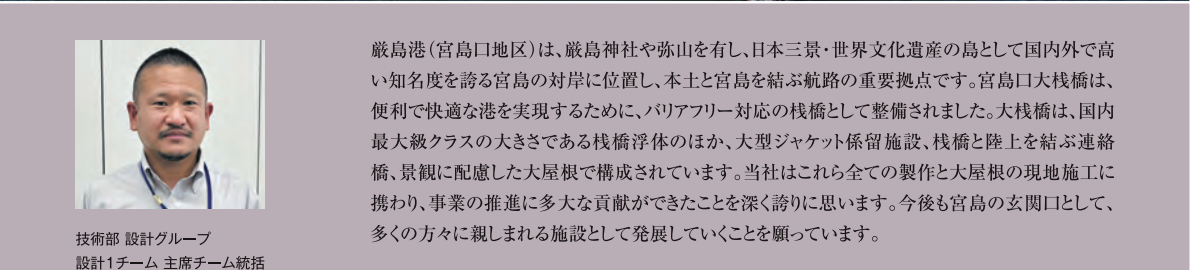
岩城橋



南本牧1・E上部



飛鳥ジャンクション



宮島口大棧橋



留萌大橋



飛鳥大橋



飛鳥木場高架橋



南本牧Ⅲ-2



日野橋



技術部 設計グループ
設計1チーム 主席チーム統括

津丸 徳宏

棧橋名：厳島港 宮島口大棧橋
架設当時：【浮棧橋 及び 連絡橋製作工事】
現場代理人 兼 監理技術者
兼 設計担当者
【屋根工事】
現場代理人 兼 監理技術者
兼 工事担当者

厳島港(宮島口地区)は、厳島神社や弥山を有し、日本三景・世界文化遺産の島として国内外で高い知名度を誇る宮島の対岸に位置し、本土と宮島を結ぶ航路の重要拠点です。宮島口大棧橋は、便利で快適な港を実現するために、バリアフリー対応の棧橋として整備されました。大棧橋は、国内最大級クラスの大きさである棧橋浮体のほか、大型ジャケツ係留施設、棧橋と陸上を結ぶ連絡橋、景観に配慮した大屋根で構成されています。当社はこれら全ての製作と大屋根の現地施工に携わり、事業の推進に多大な貢献ができたことを深く誇りに思います。今後も宮島の玄関口として、多くの方々に親しまれる施設として発展していくことを願っています。

宮島は年間450万人を超える観光客が訪れる人気の観光地であり、その対岸に位置する宮島口地区は、船舶乗降人数が約940万人と全国一を誇ります。このため、観光客の利便性向上が強く求められましたが、宮島口地区では、道路交通渋滞や待合スペース、トイレの不足、旅客誘導看板の乱立、民間棧橋の老朽化等の問題が顕在化していました。これらの課題を解決するため、棧橋の統合・再編や旅客ターミナルの新設、景観形成、人と町を繋ぐターミナル構造の導入が行われました。MMBはその一環として、浮棧橋本体および係留施設(ジャケツ)の製作工事や、浮棧橋屋根の設置工事に携わり、住民の生活交通の確保と観光客の安全に配慮したアクセシビリティの向上が図られました。2020年度全建賞を受賞しました。



湊川付近鋼製橋脚



有野川橋



九島大橋



この10年で他にも多くの橋梁を手掛けています。

南本牧V区高架橋 / つばめの杜大橋 / 新木津川橋 / 田辺北IC(Aランプ・Dランプ)橋 / 日見夢大橋 / 内部川橋他3橋
孤野第二高架橋 / 広島駅前再開発Cブロック ペDESTリアンデッキ / 関西空港 桁調整 / 板橋中央陸橋
阪神高速道路大規模修繕 / 東海環状東深瀬2号高架橋 / 市道西戸部第560号線及び市道西戸部第342号線道路
津之郷山守線(福山西環状線)道路 / 本牧海づり施設渡橋等 / 新洲崎工区 / 高島水際線デッキ / 門真高架橋 / 新治橋
高速都心環状線(日本橋区間) 高速6号向島線接続地区 / 仙台宮城IC(Dランプ)橋 / 道央自動車道北郷地区橋梁